

「甘えさせること」と「甘やかすこと」どこが違うの？！

この問いは、ずいぶん昔から私たち親を不安にさせる問いの一つではないでしょうか。

さて、少しだけ私の話を聞いて下さい。私は自分の親から甘えさせてもらえなかった（これは私が勝手に感じていたことですが）ので、もっと親に甘えたかったと思いながら大人になりました。そして、もし私が親になったら、必ず子どもをじゅうぶん甘えさせて育てたい！そう思っていたのです。ところがどうでしょう。初めての子育てが始まりましたが、甘えさせるどころか、甘えてくるわが子を気持ちよく受け入れることができなかったのです。そして子どもに対して「泣かないの！」「ガマンしなさい！」「甘えないで自分でがんばって」と、自分のかつての思いとは裏腹に、いつの間にか私は自分の親と同じような「怖い親ゴン」になっていました。理想と現実の違いにガッカリ。甘えた記憶がない私には、子どもをどのように甘えさせるのがまったくわからなかったのです。ですからAPを学ぶまでは、多分この2つの区別ができてなかったと思います。



さて2つの違いは、端的に言えば、甘えさせることは子どもの求めに対して応じることだと言えるでしょう。例えば「抱っこ」と甘えてきたら、「よしよし、抱っこしてあげましょ」と応じる。「怖い」と助けを求めてきたら「怖かったね」と優しくハグしてあげるなど。子どもが必要とするたびに側にいて応じることが、子どもに安心感を与え、親子の絆も強まっていきます。また「オモチャ欲しい」と言ったら「オモチャ欲しいよね」と応じて、「この前買ったばかりだからね、今日は買わないのよ」と応える。気持ちにはしっかり応じて甘えさせ、寄り添ってあげることで子どもはガマンする力も育つのです。応じてやることで子どもがいつも自分は親から見守られているという感じを持つことが大事。それはまた子どもとの「愛着」や「信頼」にもつながります。

それに対して甘やかすことは、親の気分や都合で、ということができましよう。親の都合で子どもができることを親がしてあげたり、その時の親の気分によって子どもに何かをしてやる、例えば子どもが喜ぶだろうとオモチャを買ってあげたり、あるいは子どもが親の言うようにしたり、成績が上がると褒美をやったりすることです。

最近読んでいる「愛着の子育て」（ダニエル・J・シーゲル ティナ・ペイン・ブライソン）には「子どもがどう育つかの最もよい判断材料は、少なくとも一人の大人と確かな愛着を築けたかどうかであること」と書かれています。それには子どもが「4つのS」を感じられるようにすることであると言っています。この4つがあれば、子どもは甘えることができますよね。

- | | |
|------------------------|---------------------|
| ① 安全であること (Safe) | ② 見守られていること (Seen) |
| ③ なだめられていること (Soothed) | ④ 安心していること (Secure) |

子どもが親に甘えるのは、ごく自然なこと。子どもを甘えさせることは子どもの勇気を育てることです。私はAPを学び、心理学を学び、講座やカウンセリングを通して、甘えさせることが人間の人格形成にどれほど重要なのかを知りました。甘えを快く受け止めることが本来の親の仕事であると、今では思っています。APの教える「制限の中の自由」を使いながら、甘えにうま〜く応じていきましょう。

私？ 今では子どもが甘えることができる親になれたと思います！

甘えの種類：スキンシップ 抱っこ 話す 頼る 助けを求める 弱音を吐く 相談する 拗ねる
カンシャクを起こす 駄々こねる 嫌という わがママを言う 反抗するなど

♡ ハロー フレンズ ♡

“The Years Come & Go”

One day I was having a talk with our daughter Kathy, then about six years old. She made the statement printed above that I still think about. Last month on my birthday I turned 85—a number that looks strange even to me. It is time for me to realize that what Kathy said is really true. Actually, the years “came and went” faster that I can hardly believe!

One of the joys of aging for me has been watching my children become adults and then having their own children, which of course made me a grandmother.

Of course, I had to get even older in order to become a Great-grandmother. Fine with me! This summer two of our granddaughters gifted me with that title. Kathy’s daughter, Katrina, had a little girl in February and Keith’s daughter, Lauren, had a little boy just a week ago. Indeed, the years come and go! This has been an exciting year with the new babies, Nina and Vander.

One time I wrote “A Special Week” in the “Hello Friends” column. It was about my first experience of having a grandchild visit all by herself. An excerpt from that column:

“Naomi is nine now, and she usually goes to Japan in the summer with her mother and little sister to visit their Japanese relatives.

“This year before their trip to Japan, she decided she was old enough to make the trip from Washington, D.C. to Kansas City alone. . . . As a little surprise for Naomi, I planted some lettuce seeds in my small garden box that spelled N-A-O-M-I when they came up.

“We had a great time together, and when she returned home, she told her mother, “Next time I want to stay two weeks!” That made us very happy!”

“The Years come and go.” It has already been nine years since Naomi’s visit. Next month she is moving to New York to begin college!

I remember seeing the advertisement in a counseling magazine in the spring of 1985 for a new parenting program created by Dr. Michael Popkin. By now we have enjoyed sharing our much-used and beloved Active Parenting for over thirty years. “The Years come and go.”

So, that’s the trade-off: In order for the new generations to come along in our family as well as in our AP organization, it is necessary for us to become older persons. Thanks to using AP, we can enjoy warm relationships with everyone.

--June Seat, APJapan Founder and Friend

年月は、来てまた去っていく

ある日、娘（キャシー）との会話中、彼女は上記の言葉を言いました。その時彼女はまだ6歳でした。でもこの言葉は未だに考えさせられる言葉です。先月私は85歳の誕生日を迎えました。この数字は私にとっても信じがたい数です。ようやくキャシーが言った言葉は真実だということを実感する年齢に達したのだと思います。実際には私が思っていた以上に速く年月はやって来て去って行きました。

年を取ることの喜びとして、子ども達が成長し大人になるのを見ることができるといことがあります。それから子ども達に子どもが生まれ、つまり私はおばあちゃんになり、更にひいおばあちゃんになるにはもっと年を重ねなければなりません。でもそれは構いません。今年の夏二人の孫に子どもが生まれ、私はひいおばあちゃんになることができました。キャシーの娘のカトリーナには2月に小さな女の子が、それから長男の娘のローレンには小さな男の子が一週間前に生まれました。まさに年月は来て去っていきます。二人の新しい赤ちゃんニーナとヴァンダーによってとっても喜ばしい年になっています。

以前、「ハローフレンズ」の中で「特別な週」という題で記事を書いたことがあります。それは私の孫がたった一人で初めて私に会いに来てくれた時のことでした。そこからの引用です。

『ナオミは9歳になりました。普段は夏になると彼女は母親と妹と3人で日本の親戚に会いに行くのですが、今年は日本に行く前にワシントンD.Cから私が住んでいるカンザス市まで一人で来ることになりました。私はナオミへのサプライズとして、芽が出たら「N-A-O-M-I」となるように小さな庭にレタスの種を植えました。私たちは一緒にすばらしい時間を過ごし、家に帰ると彼女は母親に、次は二週間滞在したいと言ったそうです。このことは私をとっても喜ばせました』このナオミの訪問から9年が経ち、来月彼女は大学に入学するためニューヨークに移ります。

1985年の春、カウンセリングの雑誌にマイケル・ホプキン博士が考案した新しいペアレンティングのプログラムの公告が載っていたのを思い出します。私たちがくり返し使ってきた愛するアクティブ ペアレンティングを30年以上分かち合えることは喜びです。まさに「年月は来て、去っていく」ですね。

そのように一得一失。家族にもAP組織にも新しい世代が入ってくるためには、私たちが年を重ねることが必要なのです。APを実践することで私たちは皆さんと温かい関係を築くことができます。

AP設立者、皆さんの友人、ジューン シート

翻訳：中村 聖架

受講生さんの感想

<〇月〇日>

今まで誰からも学んでこなかった「親子関係のあり方」を学び、子どものためになる親のあり方とは何か？を、考えさせられるきっかけとなりました。今、私に子どもはいませんが日々の家族との生活や、仕事のコミュニケーションにも取り入れていきたいです。また、いつか子育てをする時が来るまでに、実践として身につけていきたいと心から思いました。

<〇月〇日>

2回目のAP講座を受け、特に印象に残ったのは「人間の行動がめざす4つの目的」についてです。

目的は同じでも、勇気づけられているか/いないかで、肯定的な行動をするか、否定的な行動をするかが分かってしまうことやその行動の目的を理解して、どう対処したらよいかなどを、自分の幼少期や周りの人間関係を振り返りながら学ぶことができました。段々と学びが深くなり、気付かされることばかりです。次回以降も、より一層楽しみになりました。

<〇月〇日>

本日は2章後半と、3章の導入まで学びました。行動のサイクルのビデオ学習が難しかったです。なんとなく分かったつもりになっていましたが、実際の言動をどう理論に落とし込んでいくか、とても悩みました。マイメッセージは短く簡潔に、声に出してみ、挑戦してみたいです。どの章も、毎回楽しみで、気付かされることばかりです。これからも楽しみ、実践しながら学習していきたいです。

<〇月〇日>

自分の良いところを20個挙げ、褒めてもらうワークがとても気恥ずかしかったですが、ささいなことも褒めていただき嬉しかったです。今後はもっと素直に自分のことも褒められるようになり、より周りの人に還元できたらと思います。第3章勇気づけの章では、自分自身も出来ていないことがたくさんありました。失敗を恐れず行動する、完璧を求めすぎない、ありのままの自分を認めるなど、改めて自分の心の中を見直したいと思いました。また責任感の章は、とても楽しみにしてました。今まで抱いていた「責任」のイメージは、世間の厳しさや、義務、というものでしたが、その人が学びと成長を積み重ねるためのものだと読み、目からうろこが出るようでした。しっかり復習し、次回に備えたいと思います。本日もありがとうございました！

<〇月〇日>

4章責任感の強い子どもに育てる、の学習を経て、問題が起こった時、それをどう対処していくかのフローがとても興味深かったです。そもそもそれは本当に問題なのか？という問いから始まることにとっても納得しました。実践には程遠いですが、読み返ししながら、行動にも反映していきたいと思います。5章も始まり、コミュニケーションの壁を作らないこと、相手を尊重し、暖かい関係を作っていくこともしっかりと学習したいと思います。読むだけでなく、実践にも取り組んでいき、より一層、よい関係を築けるようになりたいです。

<〇月〇日>

第5章の後半、壁のないコミュニケーションから6章の最後まで学習しAPを修了しました！壁のないコミュニケーションではすぐに使える心がけを学ぶことができました。特に出来事と感情を関連づける、という点では、リーダーさんの「言い当てる必要はないのでは？」という話にとっても気が楽になりました。読み取ろうではなく、p112にあるように「私はここにいます。あなたのことを本当に心にかけていますよ。」という意識や態度をもとに、きつと滲み出てくるものなんだと思いました。6章のファミリーミーティングでは、p127「家族みんなのためのものである」という言葉が心に残っています。問題解決について、みんなで取り組むことで、子どもが肯定的に解決できる力を育てるところとても素晴らしいです。

AP講座を全6回受講して、勇気、責任感、協力の3つの柱の大切さを丁寧に1つずつ学ぶことができました。頭で理解するだけではなく、感覚として染み込ませるために、実践を推奨しているところが、AP講座の素晴らしい点だと思います。単なる受講や資格ではなく、資格を取った人がどう生きるか？まで考えて作られているのかな、と思いました。今後も、教科書を読み直して、実生活に落とし込み、より良い人生を生き、いつか子育てに励みたいと思います。本当にありがとうございました！

(2022年受講生 匿名)

講座が終わるごとに、丁寧に感想を書いてくださる受講生さんがたくさんいらっしゃいます。今回はその中のお一人、匿名さんからの感想をご紹介します。いつか子育てをする時のために、APをしっかり身につけておこうという匿名さんの気持ちが伝わってきます。



トレーナー資格取得 おめでとうございます！！

トレーナー資格をいただいた今、思うこと

2022年1月に野中先生のTOTを受講しトレーナー資格をいただきました。ご縁はステップファミリー（子連れ再婚家庭）サポート支援のNPO法人M-STEP認定カウンセラー仲間である高野了美さん（埼玉）、西永悠さん（大阪）がリーダー認定を希望してくださったことからでした。受講してくださったお二人とともに、TOTにご一緒してくださった朝長トレーナー、そして、さらに深いAPの真髄を教え考えさせていただく貴重な時間をくださった野中先生に深く感謝いたします。ありがとうございました。

「自分が変わる必要がある」と実感し、2017年春にAP講座を受講しました。自分の今の子育てのことだけでなく、私が育てられた子育てにも向き合うことになり、これまでの辛かったことも思い出され初回から涙を浮かべながらの受講でした。でも不思議なことに講座の中ではいつも励ましがあり、癒されていくのでした。（さすが勇気づけのAP！当時のトレーナーさん、メンバーの皆さんありがとうございました！）10回の講座だけではなかなか変化は感じられませんでした。手ごたえは強く感じました。そして、「APはステップファミリーにこそ役立つ！！」と実感し、自分と同じように悩んでいるステップファミリーの方にAP講座を知ってもらえたら！！と願うようになりました。そして幸いにも今では少しずつステップファミリーの方々にAPをお届けする機会をいただいております。

2018年春にリーダー資格をいただいてからもなお、たくさんの失敗がありました。すべては糧となり今があることに気づかされています。テキストp13の【提言】には何度も救われてきました。全10回で新しい知識を取り入れることができた後も、リーダー会、フォローアップへの参加と、グループAP講座に…とAPに触れるにつれて徐々に、得られた知識についての理解が深まって、今もなお毎回APからの新しい気づきや自分への発見が止まらずにいます。APは本当にとっても魅力的☆彡です。

トレーナーという資格をいただいた今、新たに感じたことは、講座を通して貢献していきたいこと、カウンセラー仲間とステップファミリーの更なる支援に役立ってほしい思いとともに、今一度自分を振り返るという身の引き締まる思いがあります。APを頭で理解していても、実際には兼ねてからの独裁ができることがあります。わかったつもりでも、できていないことも未だにあり、APに触れるたびに立ち戻るといった繰り返しの途中にあります。ですから自分の不完全さを受け止めて、「APという軸」を講座を通して受講生さんにお伝えするリーダー的役割を把握し、ともに気づき学ぶ姿勢で今後も講座に向かおうと思います。

「自分を変える」必要性から今は「自分を整える」思いに至り、謙虚に自分を見つめ、初心を大切にしながらも、これまでの変化やワタシ自身に自信を持ち、APを積極的に実践し続けていきたいと思っています。この継続した実践には受講生さんだけでなく、APリーダーの皆さまが大きな存在となっています。まさに帰属・学習・貢献のスパイラルがここにあります。なぜかうまくいかない思考と行動の進路変更、心の浄化、自分への癒し、新たな目標設定の機会に、AP講座は自分の変化が環境（人との関わり）の変化…「流れを変える」ことにとっても大きな力となってくれることを実感しています。

現在「NPO法人M-STEP」という団体で、また「架け橋」という個人でもステップファミリーの支援サポートに携わらせていただいています。ステップファミリーで悩んでいる場合はなかなか打ち明けることができないことが多く、一人で悩みを抱えて悪循環から抜け出せない方もいらっしゃいます。もしそのような方と出会うことがあればぜひ、「ここに仲間がいる」ことをお伝えいただければ幸いです。自分自身がAP的であることで、地域で身近に安心できるサポートから、オンラインでも安心していただけるサポートを目指して、今後も学びや活動を重ねていきたいと思っています。

NPO法人M-STEPとは <https://m-step.org/>

架け橋  あないのりえ <https://lit.link/anainorie>

福岡市 穴井典枝

リーダー資格取得おめでとうございます ～最終レポートより～

千葉県白井市 土谷 千香子(つちや ちかこ)

いつからか、「知らない人には声をかけられても返事をしない」という社会ルールができ、ご近所関係でも挨拶がしづらくなってきています。それは一部の大人によってそういうルールを作らざるを得なくなった世の中に問題がありますが、さらに、ゲームやスマートフォンなどの普及により低年齢から機器を相手にすることが増え、ますますリアルなコミュニケーションをする機会が減っていくのではないのでしょうか。しかし、それがコミュニケーション能力低下に繋がるかという点、そうではないと思います。息子の話になりますが、小学生の息子はオンラインゲームの中でゲーム友達を作ります。危険性もありますが、子どもなりに相手がどういう人かをゲームの中で判断してお友達になっているようです。その様子を見て私の子ども時代の「文通友達」と重なるものを感じました。ですが、オンラインゲームやSNSでの問題があるのも事実です。大人がゲームやスマートフォンを子どもに与えるだけ、子ども任せにならないよう、子ども・機器・親の関係を築いていくことが必要だと思います。

家庭教育については、核家族が増え、周りに頼らず内々で解決しようとする考え方があると思います。それは自治会などのコミュニティのない地域で感じられます。なので、子どもに対する教育も親の価値観が大きく影響し、壁にぶつかった時に親も子どもと同じように不安になり、苦しむケースが増えていると感じます。

現在コロナ禍によってネットワーク社会が急加速し、「自分が子どもの頃は・・・」が通用しなくなっていると思います。親の考え方、価値観を見直す時なのかもしれません。しかし、過去、現在、未来どの時代においても家庭教育の基礎となるのは家庭内での信頼関係だと思います。親子、兄弟、姉妹、夫婦それぞれの関係が平等であり、お互いを尊敬し合い、信頼関係ができていればどんな時代がきても、壁にぶつかろうとも、乗り越えられるのではないかと思います。それは一番身近なコミュニケーション能力を養う場所にもなると思います。

埼玉県越谷市 高野 了美(たかの さとみ)

外的コントロールの世界で生きている親が増えているように感じます。多種多様な個々の尊重を理由に、行動の先にある責任は負わず、わがままを押し通しているだけであるように見受けられる等、損得勘定のみで動く人たちにはAPの良さが行き届かないのが残念です。他からの搾取は当然の権利と主張するが自己利益は譲らないなど、相互依存を知らない人は生きづらさを感じると思います。その子どもたちも同じような考え方、やり方を習得して育ってゆくでしょう。なぜ自分が社会において疎外感を感じるのかわからず辛い状況に陥りやすくなると思います。民主的(AP)な考え方の人たちが生き生きと輝いている姿を見せることで社会に広まり、社会貢献につながると思います。

兵庫県三田市 丸本 晴圭(まるもと はるか)

学校などの教育現場では決まりやルールがたくさんあり、個人の主体性が奪われ、本来持っているはずの能力が発揮できていないように感じます。〇〇してはいけない、〇〇でなければならぬという枠が邪魔して、自分で何をしたらいいのか決められない現実があると思います。これは私も含め親、大人が子どものできること、できないことを先回りして否定したり、経験する機会を奪ってしまっているからだと思います。

私たちは、子どもの話を聴かずに指図だけをして、一方的なコミュニケーションをとってしまっていることがあります。オンライン化が急速に進んでいる今、周りとは積極的に関わりを持つことに抵抗がある子どもも増えている傾向があると思います。

日々を過ごす家庭の中で子どもの「こうしたい」「ここが嫌だった」という気持ちや考えをしっかりと受け止め、自分が認められている、肯定されているという自信が育めるよう親がサポートすることが重要だと思います。自分も周りも大切にできることで、物事に協力的に取り組めたり、勇気を持って選択することができるのではないのでしょうか。人はそれぞれに価値観があり、意見が合わない場合にも思いやりを持って尊重し合うことを、家庭の中でたくさん話をしながら伝えていきたいです。

大阪府堺市 西永 悠(にしなが はるか)

APを習うまで、自分もそうであったように(自分もそう育てられたように)『独裁的方法』で子育てしている家庭が多いかなと思いました。子育ての目的が『世の中からどう見られるか』という親自身の『評価』を気にしているせいかなーと思います。そして、子どもへの『期待』も間違った『期待』を持って接してるように思います。『健やかに健康で』という期待ではなく、『投資後の期待』なのではないかと思いました。それも親になってみて、世の中の流れの中そうならざるを得ない状況だという事もわかります。近年のコロナ騒動でそう言った、『習い事信者』も減って来たような気がします。私はコロナに対して悲観的ではありません。長年培われてきた『当たり前』が『当たり前ではなくなった』からです。人間が今まで持っていた価値観を変えなければいけない状況になったからです。コロナ禍になり、オンライン授業も可能となりました。一人一台のパソコンが充てがわれました。オンラインで授業するなんて、誰が想像したでしょうか。3歳の子どもがお店に入る時に必ず消毒をする。マスクをして出かける。

APを習い『選択させる』。まさしくこれじゃないかなと思いました。子ども達は一つの媒体を持ち、どう活かすかを選択出来ます。その媒体で遊ぶのか?調べるのか?YouTubeを見るのか?勉強するのか?これからは親の言いなりではなく、自分に合った選択が出来る子が勝ち残って行くのかなーとまで思います。

うちは少し複雑で再婚同士の家庭です。途中で養育者が変わりました。その状況を受け入れないといけない子ども達にさらに、生活習慣の違いから養父との対立が始まりました。思春期も重なり、未だ状況は冷戦状態ですが、私自身が揺れ動くのではなく自分の芯をしっかりと持ち、何が起きてても動じなくなった時、家族のみんなが揺れ動く事はなくなりました。私に芯が出来た事は『誰の問題か?』を分ける事と『子どもを尊重する』という事でした。今は沢山の情報を集められますが、私の言葉一つひとつの理解が間違っていました。ついつい『尊重する=甘やかす』って事!?などの言葉の受け入れ方を間違っていた事に沢山気づきました。なので、子ども達も間違っ理解しているなーと感じる事は多々あります。『生涯勉強』という言葉も、こういった、『マイナスイメージで受け取る』事を『プラスのイメージで受け取る』という訓練が『生涯勉強』なのかなと思います。

それと大きな事がもう一つ。私は再婚をしたからこそ気づいた事があります。『夫婦仲』です。やはりそこが1番かと思えます。APを学び実践出来る事も、ある程度夫婦仲が良くないと全く入って来ないと思えました。これもまた、世の中の流れや状況、沢山の要因が重なり夫婦仲も悪くなったりしますが、夫婦も『尊重しあえる状況』でないと、子どもへの尊重もわからないだろうなと思えます。APでも習ったように『セルフ・エスティーム』がとっても大切だなと思えます。親から愛情をもらって育っていなくても、パートナーからの愛を素直に受け取る事が出来れば、帰属が育ちます。そこには沢山のまた要因がありますが、やはり『自分軸』がとっても大切だと思えました。それと、一人の人に関わる周りの理解も大切かと思えます。よく使う言葉があります。『偏見のメガネをかけて人を見ない』という事。一人親家庭は虐待が多い、とかあの人は派手な格好をしているから生活も派手だとか。ついつい偏見メガネで人を判断しがちですが、『いけない』と思ったらメガネを外すように心がけています。そのメガネで判断すると、助けられたかもしれない人を助けられない可能性もあります。助けて欲しい人が見えない時もあります。大人がそれに気づいたら、きっと良い子育てが皆で出来る気がします。どんなメガネをかけるか?全ては『自分の選択』だと思います。APで学んだように、子ども達には『後悔しない選択』を出来るように勇気づけ励まし子育てをしたいと思えます。

各地でリーダーがたくさん誕生しています!

これからさらに、APがたくさんの方に伝わっていくことでしょう。皆様のご活躍を楽しみにしています!



～リーダー研修会in関東のご報告～

2022年6月25日(土) 東京都渋谷区にて「リーダー研修会in関東」を開催しました！3年ぶりとなる関東でのリーダー研修会。午前中は自己紹介から始まり午後はワークと、終始和やかな学びの時間となりました。最高気温が35度を超える中、ご参加いただいた皆さまありがとうございました！

<アンケートより>

- ・リーダーさんに対面でお会いできることが嬉しかったです。
- ・皆さんがいろんな場所で活躍されている基本にAPがあるということが明確になった。
- ・リーダーの皆さんのAPへの想いを聞いて、勇気をいただきました。
- ・皆さんの生き方が素晴らしく、刺激になりました。参加できてよかったです。
- ・「好き」や「ビジョン」を語る場が少ない中、心のままに話したことを聴いていただけて、豊かな時間を過ごせました。
- ・一人ではなく同じ土俵で講座を伝える仲間の方がいる安心感と、自分に向き合う時間のなさを痛感しました。



ランチ休憩前にパチリ



楽しい時間はあっという間です



懇親会も盛り上がりました♪

Leader's recommend

磯部玲子リーダーのオススメ（福岡市在住）



『わたしとなかよし』
ナンシー・カールソン

わたしを大切にするって？わたしを信じるって？
それは、わたしとなかよしになること！
セルフエスティームを学ぶファーストブックに
いかがでしょうか。



『ラチとらいおん』
マレーク・ベロニカ

子どもたちは、弱虫なラチに自分を重ねるかも！？「勇気づけ」の方法をライオンが教えてくれますよ。
全ての親に届けたい1冊です。

リーダー研修会in福岡の

🌟お知らせ🌟

「リーダー研修会in福岡」を開きます。テーマは「自己肯定感を育てる」です。ワークや分かち合いを通してみんなで学び合いたいと思います。また研修会後は初めての懇親会を開きます。

🌟日時: 2022年10月8日(土曜日) 10時から16時まで

🌟場所: アクロス 福岡 研修室604

🌟参加費: 研修会と懇親会参加の場合 10,000円
研修会のみ参加 6,000円

🌟申込み: 9月28日までにAPジャパンまで。

なお参加費は当日お願いいたします。

<あとがき>

子どもの権利の保障を定めた『こども基本法』が6月に成立しました。1989年に国連総会で採択され、日本も94年に批准した「子どもの権利条約」に対応する国内法という位置付けです。基本法の中には「子どもの意見を表明する機会の確保」「子どもの意見の尊重」といった内容が盛り込まれており、これはまさに「大人も子どももお互いに尊敬し合う平等な関係」というAPの基本概念そのものです。APを広げていくことで、日本にはまだ根強い「大人の言うことに従う子がいい子」という価値観が少しずつ変わっていくことを願わずにはいられません。(畠中)

「愛着の子育て」という本を読み、以前心理学を学んだ時に「愛着(アタッチメント)」は子どもにとって大変重要だと書かれていたことを思い出しました。愛着理論を生み出したのはジョン・ボウルビィというイギリスの精神科医です。ボウルビィは「唯一の人物に自己の愛着を向ける機会がなければ、人を愛することができない性格が作られる」と述べています。今さら言うまでもなく心の発達は、人が生まれた瞬間からすでに始まっているんだなとつくづく思いました。

話は変わりますが、講座で「親子の距離の取り方」について話し合ってみました。何でも包み隠さず子どもに話す。親の心配や悩みを子どもに相談する。仲良し友達(夫婦)みたいな親子関係になっている。このような親子関係は距離が近すぎるかも知れません。APは親と子どもの平等や安心感、信頼関係などを大切にはしていますが、親子の役割や立場の違いをしっかりと教えているところは本当に素晴らしいと思います。さて皆さんの親子関係はいかが?(野中)



APP社のホームページ

<http://www.activeparenting.com>

APジャパンのホームページ

<http://www.activeparenting.or.jp>

「リンク」はAPジャパンの印刷物です。

© 2022 発行者 APジャパン
代表 野中利子
副代表 畠中 愛子

〒814-0111

福岡市城南区茶山2-2-5 (本部)

電話: 090-8391-3196

FAX: 092-851-8606

apjapan@activeparenting.or.jp

季刊誌「リンク」は年4回発行しています。
ホームページで自由にご覧になれます。